

表-2) ①排出ガス測定

【説明】

公害防止協定値については、印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書(以下、協定書という)の第6条第1項に規定されています。

排出ガスにおいては有害物質とされているばいじん(ダスト)、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素は、大気汚染の原因とされており、大気汚染防止法等によって排出濃度が規制されています。

公害防止協定値では大気汚染防止法を上回る厳しい基準を設定しております。

【有害物質への対応について】

- ・ ばいじん(ダスト) — 物の燃焼時に発生する固形物(すすや灰等)ですが、バグフィルターで99.9%以上捕集しています。
- ・ 硫黄酸化物 — 石油等の化石燃料が燃焼することで発生するもので、酸性雨の原因とされていますが、有害ガス除去装置により消石灰を噴霧して反応させ除去抑制しています。
- ・ 窒素酸化物 — 空気による燃焼過程を持つ施設では必ず発生し、光化学オキシダントを生成しますが、尿素水を噴霧することにより、抑制しています。
- ・ 塩化水素 — 塩化ビニル樹脂の焼却で発生し、水に溶けると塩酸になりますが、有害ガス除去装置により消石灰を噴霧して反応させ除去、抑制しています。
- ・ 水銀 — 有害ごみ(乾電池、蛍光管、水銀入り温度計等)の正しい出し方の啓発をしています。

区 分	単 位	規制値	協定値	定量下限値	測定値(O ₂ 12%換算値)						備考 【測定方法】
					1号炉 R5.5.24	2号炉 R5.4.27	3号炉 R5.6.21	1号炉 R6.1.24	2号炉 R5.10.19	3号炉 R5.12.22	
ばいじん	g/Nm ³	0.08	0.03	0.001	ND	ND	ND	ND	ND	ND	JIS Z-8808
硫黄酸化物(SO _x)	ppm	1900	50	1	ND	ND	ND	ND	ND	ND	JIS K-0103
窒素酸化物(NO _x)	ppm	250	120	10	31	30	32	29	37	31	JIS K-0104
塩化水素(HCl)	ppm	430	80	10	17	14	17	17	19	31	JIS K-0107
水銀(Hg)	ガス状	50	—	0.11	1.9	0.95	0.18	0.61	1.5	0.8	環境省告示第94号
	粒子状			0.0011	0.013	0.0034	ND	0.0039	0.0046	0.0009	
	合 計			0.11	1.9	0.95	0.18	0.61	1.5	0.8	

※ NDは定量下限値未満を示しています。

					R5.6.23		R5.10.18	
					-2		-2	
	ppm	1	1	0.1	ND	ND	ND	ND
	ppm	0.002	0.002	0.0001	ND	ND	ND	ND
	ppm	0.02	0.02	0.0001	ND	ND	ND	ND
	ppm	0.01	0.01	0.0001	ND	ND	ND	ND
	ppm	0.005	0.005	0.0005	ND	ND	ND	ND

					R5.6.23	R5.10.18
	N /	2.64	2.44	0.0001	ND	ND
	N /	529	487.7	0.1	0.4	1.2
	N /	10.5	9.8	0.001	ND	ND

					R5.6.23	R5.10.18
	N /	0.295	0.266	0.0001	ND	ND
	N /	59.1	53.2	0.1	0.2	0.2
	N /	1.18	1.06	0.001	ND	ND

表-5) 臭気濃度測定(調査測定)

【説明】

臭気濃度の公害防止協定値(目標値)は協定書第6条第4項、別表4より調査、測定方法については、同書第8条及び別表7に規定されています。
 ※三点比較式臭袋とは、臭いをつめた袋と無臭の袋2つを加えたものを1セットとして稀釈濃度を変えたものを複数用意し臭いを判定する測定方法で、被験者(パネル)複数に判定してもらうことで、精度と客観性を得ています。

(1)敷地境界 (測定場所 図2 参照)

区 分	測定地点	目標値	敷地境界	備 考
測定日:R5.6.23	風下	15	10未満	2, 3号炉稼働
	風上		10未満	
測定日:R5.10.18	風下		10未満	号炉稼働
	風上		10未満	

(2)煙突・臭突出口 (測定場所 図2 参照)

区 分	測定地点	目標値	煙突出口	臭突出口	備 考
測定日:R5.6.23	1回目	500	400	320	2号炉
	2回目		400		
測定日:R5.10.18	1回目		50	32	1号炉
	2回目		79		

※臭気濃度測定(印西クリーンセンターの操業及び公害防止に関する協定書第6条第1項(4)悪臭値 別表4)において、臭気濃度は法規制が無いので目標値としている。

※測定方法:三点比較式臭袋法による

表-6) 処理水の水質測定

【説明】

公害防止協定値は協定書第6条第5項、調査測定等は同書第8条第2項に規定されています。

測定物質は、健康被害を生ずるおそれのある物質として水質汚濁防止法で定められている10物質を対象としていますが、当施設はクローズド方式として通常運転時は外部に放流することはありません。(放流時は下水道を利用します。)

各物質については下記を参照してください。

測定日: R5.6.21					
区分	単位	規制値	協定値	定量下限値	測定値
カドミウム	mg/l	0.01	0.01	0.001	ND
シアン	mg/l	不検出	不検出	0.01	ND
有機リン	mg/l	不検出	不検出	0.01	ND
鉛	mg/l	0.1	0.1	0.01	ND
六価クロム	mg/l	0.05	0.05	0.005	ND
砒素	mg/l	0.05	0.05	0.005	ND
総水銀	mg/l	0.0005	0.0005	0.00005	ND
アルキル水銀	mg/l	不検出	不検出	0.0005	ND
PCB	mg/l	不検出	不検出	0.0005	ND
ダイオキシン類	pg-TEQ/l	10	—	—	0

※ 「ND」は定量下限値未満を示しています。

※ ダイオキシン類は 前回測定日の記載のみでしたので、今回測定結果を報告いたします。

●測定物質について

- ・カドミウム — 顔料やニッカド電池の電極等、工業製品に使用されており、健康被害としてはイタイイタイ病が有名です。
- ・シアン — シアン化合物として冶金やメッキ加工で使用されており、毒物として有名な青酸カリウムがあります。
- ・有機リン — 有機化合物として神経系、呼吸器系に対する毒性から殺虫剤として使われています。
- ・鉛 — 安価で加工しやすいため様々な場所で使用されていましたが、人間の酵素の働きを阻害するという毒性があり、現在は制限されています。
- ・六価クロム — 印刷やメッキ処理に使用されています。発がん性物質であり、付着したままでは皮膚炎や腫瘍を起こします。
- ・砒素 — 毒性の強さから農業や木材防腐で使用されています。森永ミルクや和歌山での事件等で有名な毒物です。
- ・総水銀 — 水銀単体と他の金属と混和させた合金の累計で、腎臓の中毒を発生させます。
- ・アルキル水銀 — 有機水銀化合物の総称、日本では水俣病の原因であるメチル水銀が有名です。健康被害は脳神経への中毒です。
- ・PCB — ポリ塩化ビフェニルのことで電気絶縁性や耐薬品性に優れることから様々な場所で使用されています。加熱によりダイオキシン類に変異します。

※ダイオキシンについては、表-2で説明したとおりです。

表-7) 排ガス中の重金属測定(調査測定)

【説明】

調査測定等は協定書第8条に規定されています。

下記区分にある重金属はごみに含まれているもので、焼却されることで分解され、拡散するおそれがあることから測定しています。

各測定物質については下記を参照してください。

なお、既に説明されているものについては省略してあります。

- ・ バナジウム 鉄鋼や合金、プラスチック原料生成の触媒で使われるほか、顔料や塗料でも使用されます。
- ・ マンガン 電池の材料として有名ですが、化合物として肥料にも使われています。
- ・ フッ化水素 医薬用外毒物に指定されていますが、人口歯の生成等にも使われています。また、フッ素樹脂の原料になり、フライパンやホットプレートなどの調理器具の表面コート塗装などに多く使用されています。

〔規制値、協定値は無し〕 測定義務 : 要測定									
測定方法	JIS K-0083						JIS K-0109	JIS K-0105	環大企第141号
区分 単位: (mg/Nm ³)	バナジウム	カドミウム	鉛	ひ素	クロム	マンガン	シアン化水素	フッ化水素	PCB
定量下限値	0.01	0.002	0.01	0.005	0.01	0.01	0.2	1.0	0.01
測定日: R5.5.24	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
測定日: R5.10.19	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

※ NDは定量下限値未満を示しています。

※カルシウム、銅、亜鉛の測定項目については、令和5年度より実施しないこととなりました。

経緯 カルシウム、銅、亜鉛の3項目は、JIS K 0083(排ガス中の金属分析方法)に規定されていませんでした。2016年03月04日の環境改正についての指摘がありましたがそのまま測定を継続してきたため、令和4年度第4回の環境委員会で測定の削除に関する協議することになりました。

表-8) ごみ質分析(調査測定)

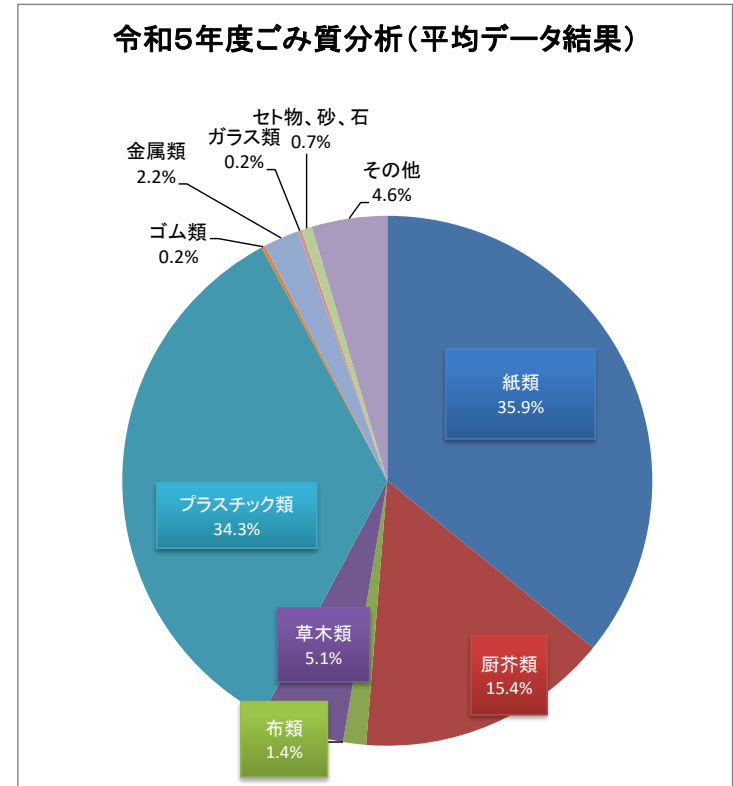
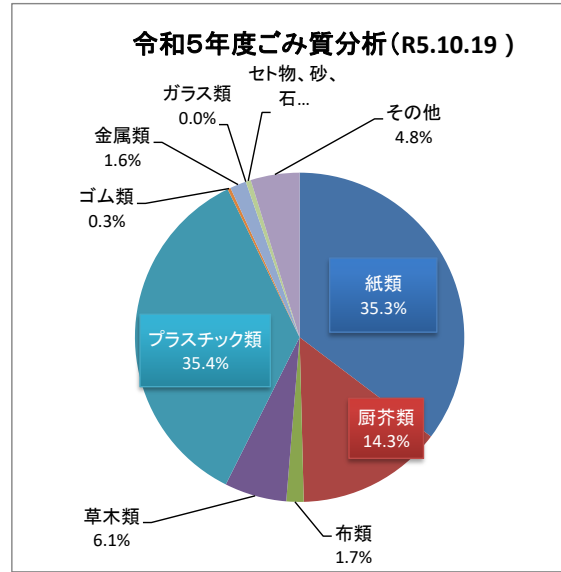
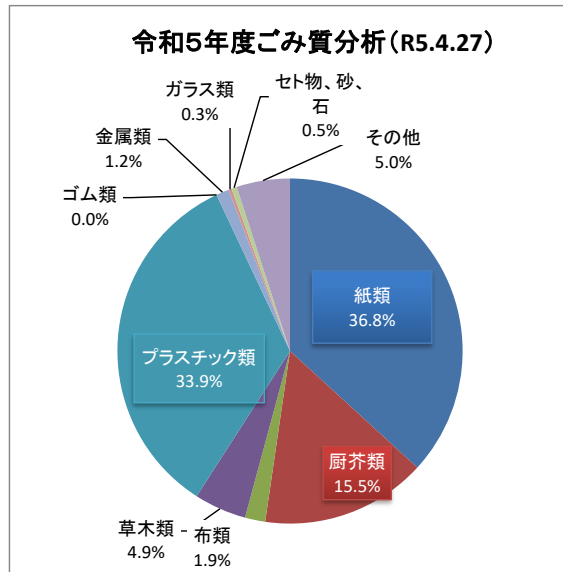
【説明】

調査測定等は協定書第8条に規定されています。

ごみ質とは、ごみの物質的・科学的性質の総称であり、下記の区分欄に書かれている紙類や厨芥類等の種類組成、水分、見掛比重、低位発熱量等を指します。これら进行分析し性状を把握することで、効率よく安定したごみの燃焼処理に活用しています。

〔規制値、協定値は無し〕 測定義務 : 要測定														
区分 単位:(%)	紙類	厨芥類	布類	草木類	プラスチック類	ゴム類	金属類	ガラス類	セト物、砂、石	その他	計	水分	見掛比重(kg/l)	低位発熱量(kcal/kg) (実測値)
測定日:R5.4.27	36.8	15.5	1.9	4.9	33.9	0.0	1.2	0.3	0.5	5.0	100.0	35.2	0.136	3,010
測定日:R5.7.25	35.2	16.4	0.9	5.0	34.7	0.1	2.3	0.4	0.8	4.2	100.0	34.4	0.135	3,130
測定日:R5.10.19	35.3	14.3	1.7	6.1	35.4	0.3	1.6	0.0	0.5	4.8	100.0	35.3	0.137	3,030
測定日:R6.1.24	36.1	15.5	1.1	4.5	33.3	0.5	3.6	0.2	0.8	4.4	100.0	35.3	0.145	2,990
平均	35.9	15.4	1.4	5.1	34.3	0.2	2.2	0.2	0.7	4.6	100.0	35.1	0.138	3,040

●ごみ質分析グラフ



●令和4年度の平均データと比較すると、プラスチック類の割合が増え、紙類や厨芥類の割合が減りました。

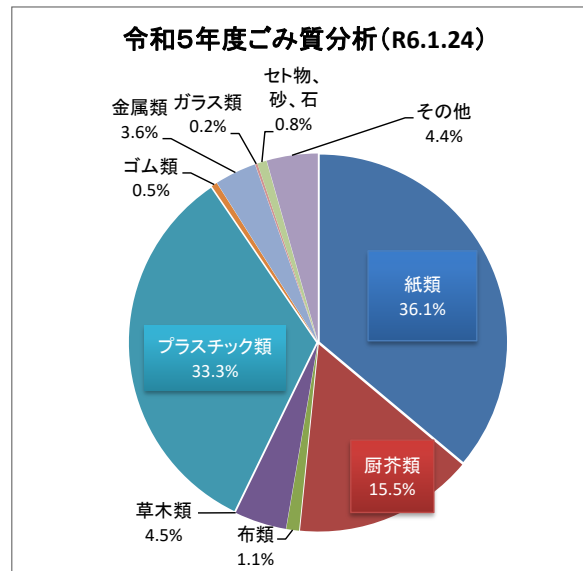
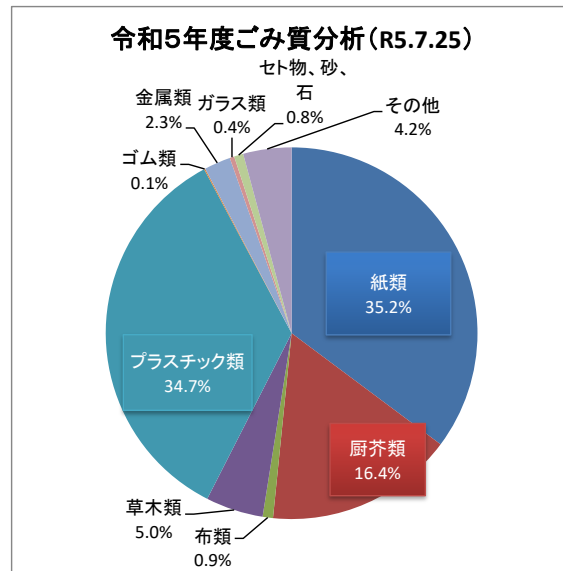


表-8) ごみ質分析(調査測定)

●太文字、網掛け部分は今回の報告データです。

【説明】

調査測定等は協定書第8条に規定されています。

ごみ質とは、ごみの物質的・科学的性質の総称であり、下記の区分欄に書かれている紙類や厨芥類等の種類組成、水分、見掛比重、低位発熱量等を指します。これら进行分析し性状を把握することで、効率よく安定したごみの燃焼処理に活用しています。

〔規制値、協定値は無し〕 測定義務 : 要測定														
区分 単位:(%)	紙類	厨芥類	布類	草木類	プラスチック類	ゴム類	金属類	ガラス類	セト物、砂、石	その他	計	水分	見掛比重(kg/l)	低位発熱量(kcal/kg) (実測値)
測定日:4月24日	36.2	8.6	2.6	7.0	38.1	2.2	0.3	0.9	2.1	2.0	100.0	43.4	0.180	2,391
平均	36.2	8.6	2.6	7.0	38.1	2.2	0.3	0.9	2.1	2.0	100.0	43.4	0.180	2,391

表-9) 気象測定結果

【説明】

騒音や振動、悪臭の測定時における気象状況を報告します。

これらは各測定項目における当日の気象状況を把握して、原因把握に努める資料としています。

(1) 騒音・振動測定日の気象 (表-3)

測定年月日	時間区分	天候	気温(°C)	湿度(%)	風向	風速(m/S)
測定日: R5.5.26	朝	晴	16.3	69	南東	1.5
	昼	曇	22.8	52	南東	2.6
	夕	晴	20.7	57	南東	1.5
	夜	晴	17.6	71	東南東	0.9
測定日: R5.11.30	朝	晴	5.4	53	西南西	0.7
	昼	晴	13.5	67	北西	1.3
	夕	晴	9.6	38	北東	1.2
	夜	晴	6.4	55	東	0.9

ガラス類

(2) 悪臭物質測定日の気象 (表-4)

測定年月日	気温(°C)	湿度(%)	風向	風速(m/S)	測定地点
測定日: R5.6.23	19.1	84	北西	0.6	工場棟屋上
測定日: R5.10.18	15.1	52	北北西	1.8	工場棟屋上

(3) 臭気濃度測定日の気象 (表-5)

測定年月日	気温(°C)	湿度(%)	風向	風速(m/S)	測定地点
測定日: R5.6.23	19.1	84	北西	0.6	工場棟屋上
測定日: R5.10.18	15.1	52	北北西	1.8	工場棟屋上

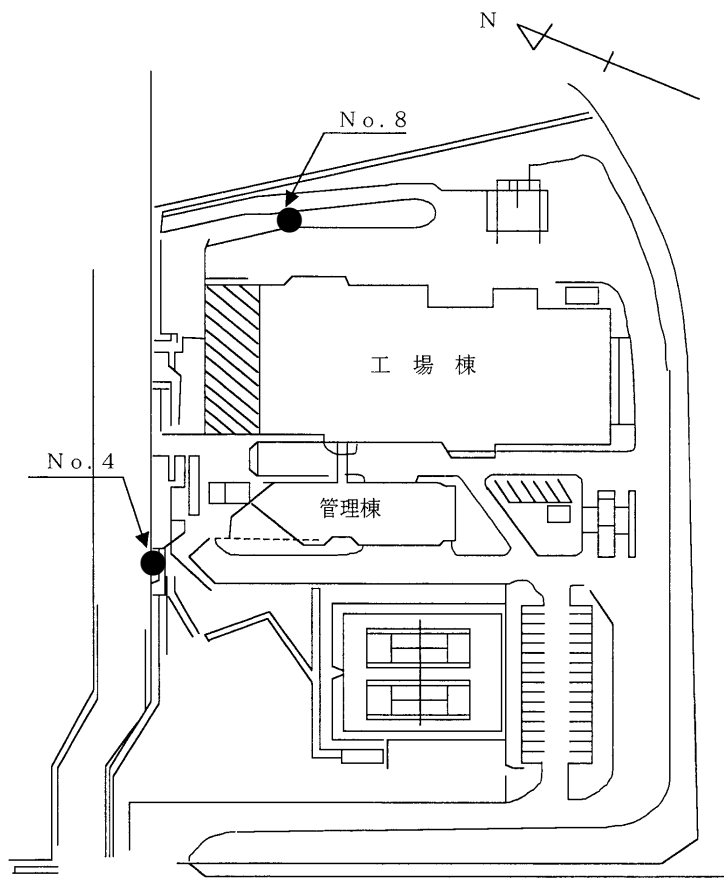


図-1 騒音・振動測定位置図

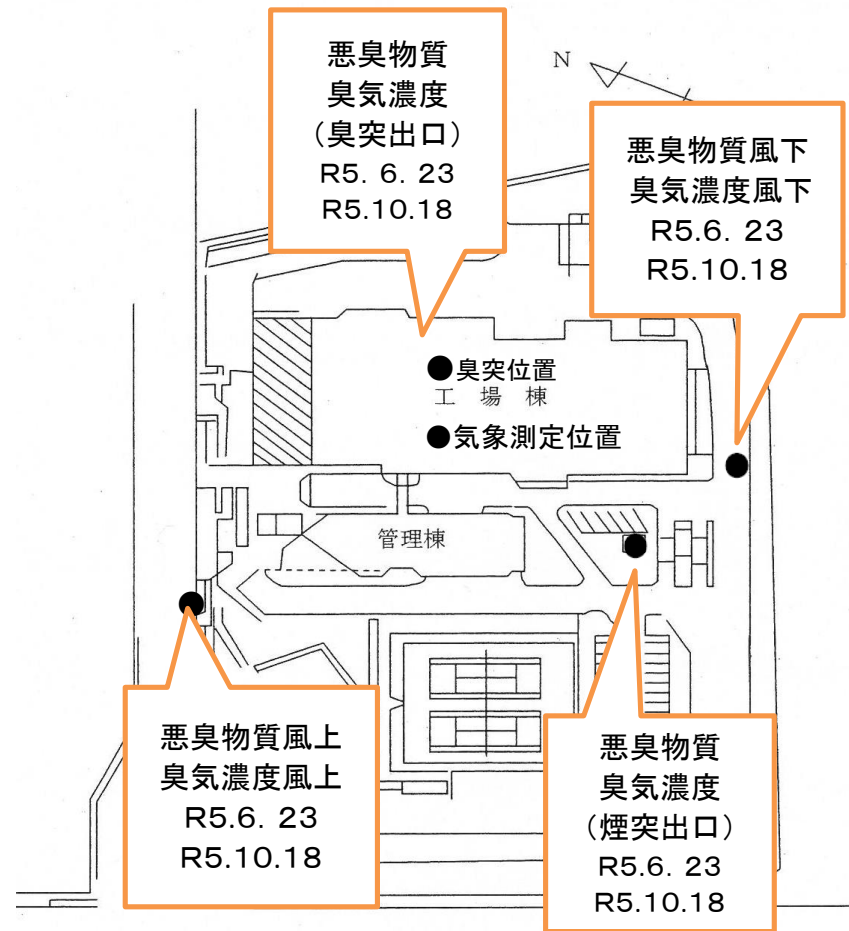


図-2 悪臭物質・臭気濃度測定位置図

まとめ

今回は、令和6年2月から令和6年5月分の印西クリーンセンターの操業状況等の報告です。

今回の期間における各種測定結果につきましては、規制値、協定値及び目標値以内で問題ありませんでした。

なお、今後も安全な操業に努めてまいります。